

名古屋高速道路における新型コロナウイルス感染症の影響について

令和2年6月18日 名古屋高速道路公社

1. 交通量の変化

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、日平均交通量が対前年度比で、3月は11%(約4万台)減、4月は32%(約11万台)減、5月は35%(約12万台)減。
- 5月の交通量は、回復基調にある。
- 交通量の減少が経営に与える影響については、今後の推移を注視していく。

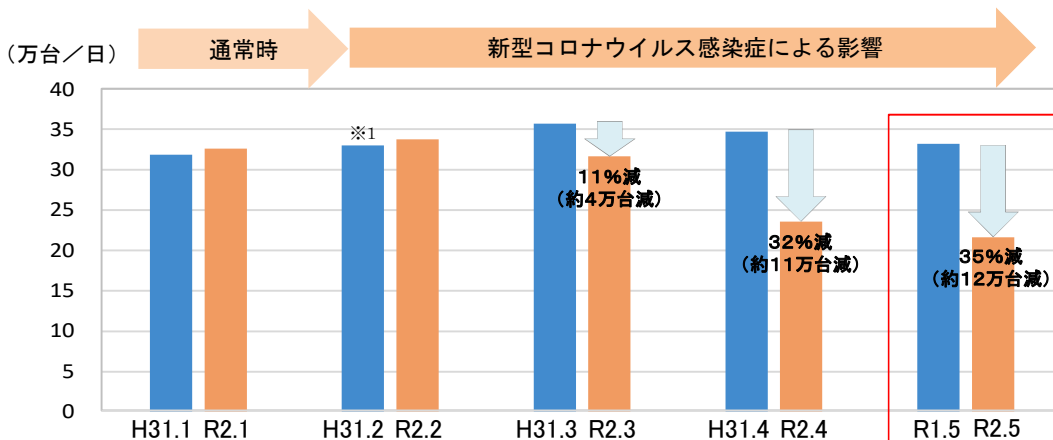


図1: 月別・交通量の変化(日平均交通量)

※1 H31年2月は東山トンネル天井板撤去工事に伴う通行止め(3日~27日)の影響あり。

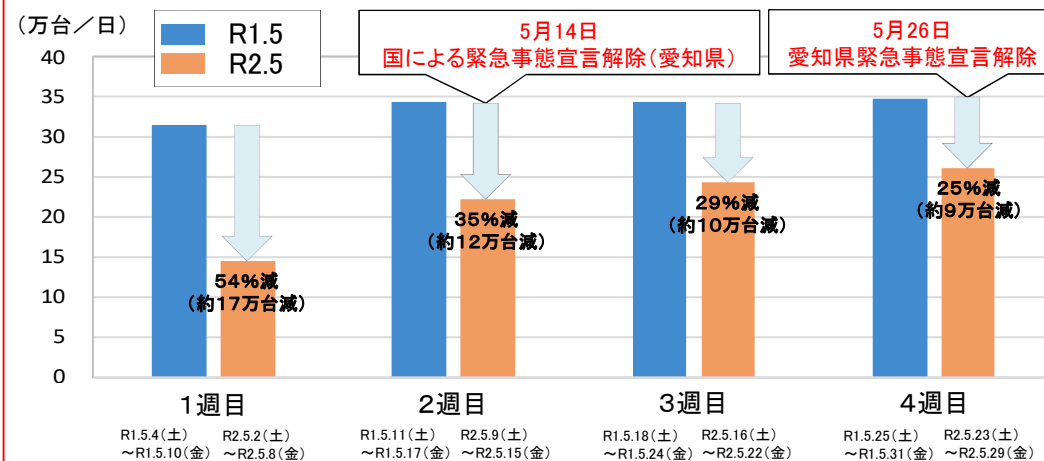


図2: 週別・交通量の変化(日平均交通量)

[参考]

他の都市高速道路との比較(代表断面交通量^{※2}での前年度比較)

	4月 ^{※3}	5月
首都高速	33%減	33%減
阪神高速	34%減	32%減
名古屋高速	36%減	35%減

首都高速・阪神高速の交通量は国土交通省HPのデータより作成

※2 各高速道路の代表的な地点における平均交通量

※3 4月は4/10以降での集計(愛知県緊急事態宣言発令後)

2. 料金収受会社事務員・収受員の感染による料金所閉鎖の概要

- 料金収受会社事務員及び収受員の感染により、2月に、高速4号東海線・高速5号万場線の6料金所を最大4日間に渡って一時閉鎖。ETC車両限定で順次開放し、14日間で通常運用に復旧。

令和2年 2月22日	6料金所の閉鎖を実施(東海新宝入口は2月23日)
2月25日	閉鎖6料金所において、ETC車両限定で開放を実施
3月6日	現金車も通行可能とし、通常運用に復旧完了



図3: 閉鎖料金所位置図



図4: ETC車両限定通行可能時の状況(六番南料金所)



図5: 料金所における消毒の状況(船見料金所)